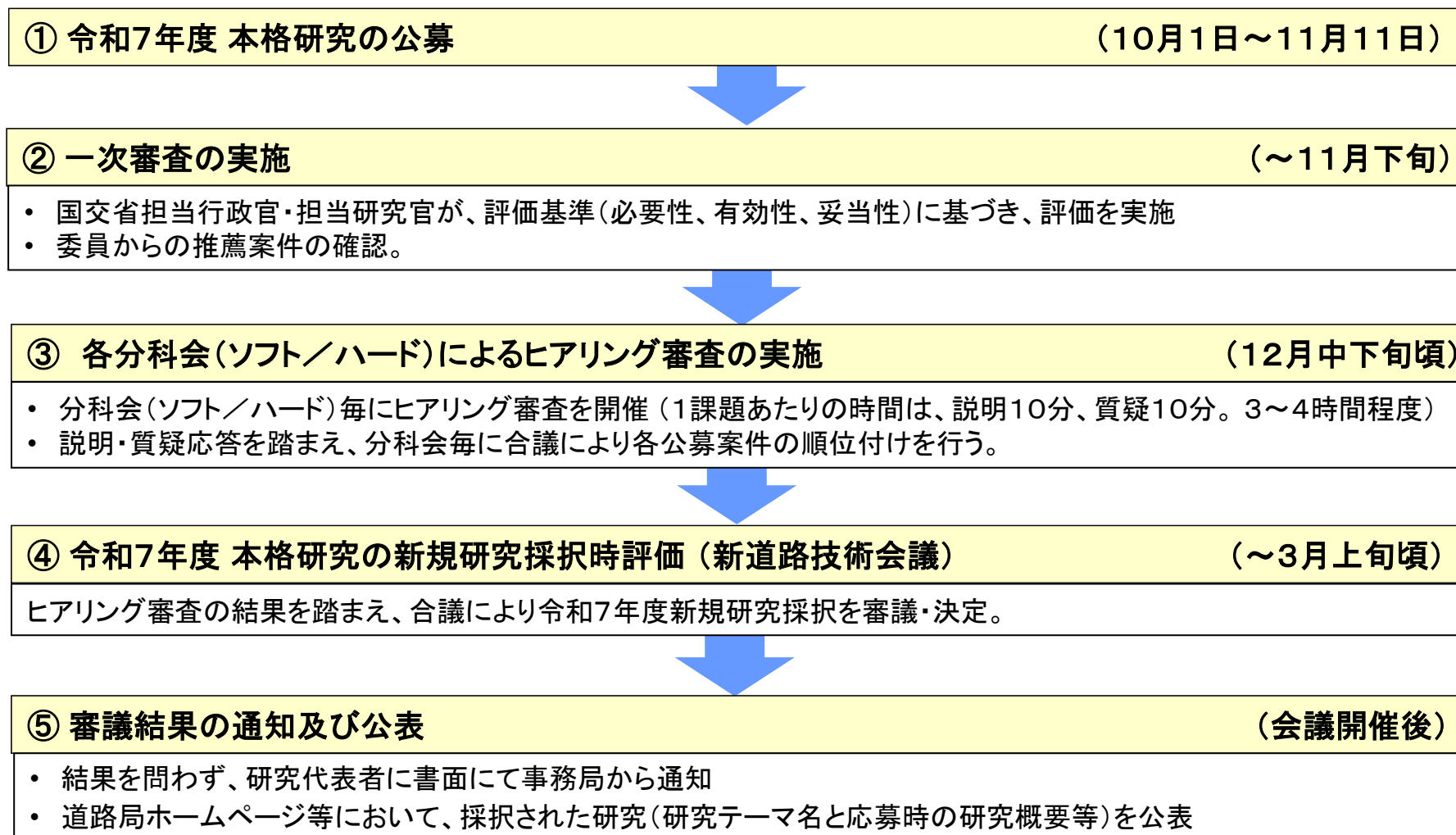


今後の技術研究開発の進め方について

今後のスケジュール(案) 令和7年度 本格研究(公募・審査の手順)



今後のスケジュール(案) 令和6年度 中間評価の手順

研究状況報告書の作成

(～12月13日)



① 書類の事前査読(書面による評価)

(～1月中旬頃)

- ・ 事前査読を実施(事前査読結果の提出は任意)
- ・ 委員からの質問・コメントがある場合は、研究代表者へ事前に連絡。



② 研究評価会の開催(ヒアリングによる評価)

(1月下旬～2月上旬頃)

- ・ 分科会毎に研究評価会を開催(1課題あたりの時間は、報告10分、質疑10分。4～5時間程度)
- ・ 報告・質疑を踏まえ、分科会各委員は各課題の中間評価シートを作成。
- ・ 各委員からの中間評価シートを基に、中間評価(案)を作成するための審議を実施。



③ 中間評価(案)の作成

(～2月下旬頃)

研究評価会后、分科会長は中間評価(案)を作成。



④ 中間評価の決定

(～3月上旬頃)

新道路技術会議において中間評価(案)を審議し、合議により中間評価を決定。



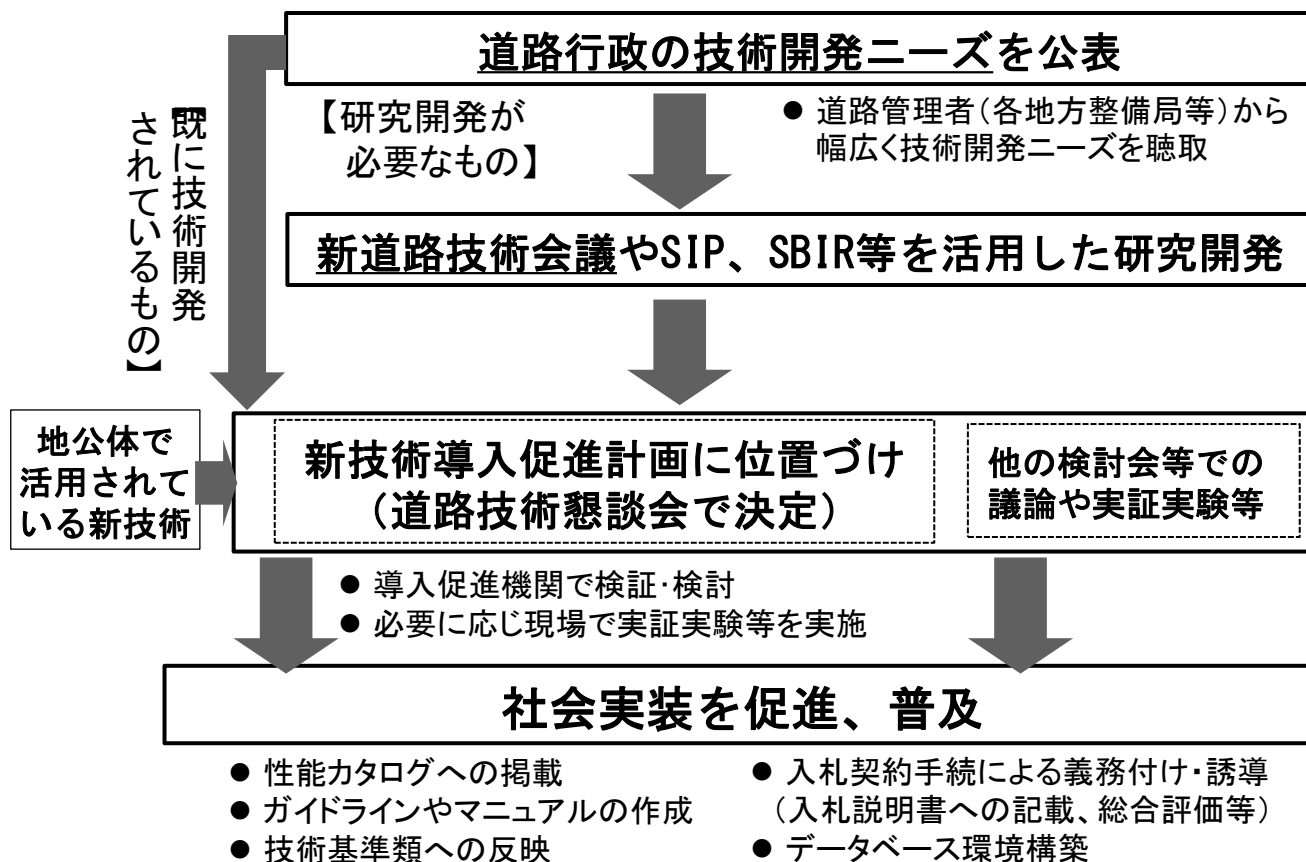
⑤ 中間評価結果の通知及び公表

(会議開催後)

- ・ 研究代表者に書面にて通知
- ・ 道路局ホームページ等において、研究状況報告書、研究概要と併せて公表

道路の技術開発・新技術導入のフロー

- 「道路行政の技術開発ニーズ一覧」は、各地方整備局等の技術開発ニーズを取りまとめたもの
(全205件 令和6年10月時点)
- 今後の道路技術の研究開発は、本ニーズに基づき以下のフローで現場実装を目指す
- 各ニーズには、単独ではなく、複数のニーズを組み合わせた技術開発を期待されるものも含まれる
- 各ニーズの担当の連絡先を明示し、技術開発相談等に応じる



道路行政の技術開発ニーズ

道路

[国土交通省ホームページ](#)

[道路トップ](#) > [ご意見・ご要望](#) > [English](#)

[ホーム](#) > [政策・仕事](#) > [道路](#) > [道路に関する新技術の活用](#) > 道路の技術開発・新技術導入について

道路の技術開発・新技術導入について

- 道路局の政策の質の向上に資する技術研究開発の参考となる政策

- ▷ [道路政策ビジョン「2040年、道路の景色が変わる」](#)
 - ▷ [WISNET（ワイズネット）2050・政策集](#)
 - ▷ [「社会資本整備審議会 道路分科会 国土幹線道路部会 令和6年能登半島地震を踏まえた緊急提言」（令和6年6月）（PDF形式）](#)
 - ▷ [「第23回 社会資本整備審議会 道路分科会 道路技術小委員会 令和6年能登半島地震を踏まえた技術基準等の対応方針（案）」（PDF形式）](#)

道路行政の技術開発ニーズ

- 「道路行政の技術開発ニーズ一覧」（以下「ニーズ一覧」）は、国土交通省地方整備局等の現場道路管理者における技術開発ニーズを取りまとめたものです。
- 「ニーズ一覧」は、現時点（全205件 令和6年10月時点）の取りまとめであり、今後も随時更新していく予定です。
- 「ニーズ一覧」は、あくまでも検討の導入部として例示させて頂いているものであり、各担当部署と相談をして頂き、開発の具体的な方向性について検討して頂くことが重要です。
- 国土交通省道路局としては、これらの技術開発によって、これまで出来なかったことが出来るようになるということだけでなく、日常的に使われる技術については、業務の効率化に繋がるという側面も重視しております。「ニーズ一覧」にある新技術の開発に既存技術や別の新技術を組み合わせる、あるいは、「ニーズ一覧」にある複数の新技術を同時に開発することによって、業務の効率化が大幅に図られるという技術開発があれば、現場への実装がよりされやすくなるものと考えています。前者のイメージとしては、例えば、これまで計測できなかったものが計測できるという技術開発を行うだけでなく、そこから一歩進んで、計測された結果が全国共通の帳票に自動的にアウトプットされる、またはサーバーに自動保存されてデータの蓄積・閲覧が容易になる、あるいはさらに進んでAIを用いた分析結果も見ることが出来る等です。
- 「ニーズ一覧」に対するご提案を頂くことも可能です。また、その他質問・ご意見等があれば、「ニーズ一覧」に掲載されている各担当部署（連絡先は下記参照）へご連絡ください。

道路局

国道・技術課 技術企画グループ	03-5253-8498
国道・技術課 道路メンテナンス企画室	03-5253-8494
環境安全・防災課	03-5253-8495
環境安全・防災課 道路防災対策室	03-5253-8489
路政課 道路利用調整室	03-5253-8481
企画課 道路経済調査室	03-5253-8487
企画課 評価室	03-5253-8593
道路交通管理課 ITS推進室	03-5253-8481
道路交通管理課 車両通行対策室	03-5253-8483

技術調査課施工企画室 03-5253-8285

- [道路行政の技術開発ニーズ一覧](#)（Excel形式）

URL : <https://www.mlit.go.jp/road/tech/donyu/index.html>

道路行政の技術開発ニーズ一覧(抜粋)

道路行政の技術開発ニーズ一覧(国交省HPより抜粋) (令和6年10月時点 全205件)

No.	ハードソフト	分野	分類-1	分類-2	項目名	求める内容	対応する技術			※早期開発を求めるニーズ	担当課室	備考
HDs2	ハード	防災・減災が主流となる社会の実現	3_土工	点検	土砂崩落等を自動検知が可能となる技術	盛土や切土区間で土砂崩落が発生した場合、周辺交通に甚大な影響を与えるが、事前の兆候が無ければ観測等を行うことも困難であり、突発的に発生する事象への対応が困難である。本ニーズでは、土砂崩落を自動的に検知する機器の開発を求めるものである。				●	国道・技術課 技術企画G	・SIP第3期課題 ・SBIR フェーズ3基金事業
HDs4	ハード	防災・減災が主流となる社会の実現	1_橋梁	点検	道路橋の震後点検で支保部を効率的に点検する技術	大規模地震発生後は迅速に橋梁の状態を確認し、通行可否を判断する必要がある。特に支保部等は目視点検のためのアクセスが困難な場合があり、点検に時間を要することが課題である。本ニーズでは、地震後、近接目視のできない条件下において、遠隔から通行可否を判断するための画像計測技術やUAV等の技術開発を求めるものである。	【UAV 画像計測】 BR010003 BR010009 BR010015 BR010030 BR010057 BR010060	【変位 計測・モニタリング】 BR030026 BR030003 BR030052 BR030046 BR030053		●	国道・技術課 技術企画G	
HDs5	ハード	防災・減災が主流となる社会の実現	9_維持管理	点検	日常的な道路監視	大規模地震が発生した際などは、道路の被害状況を迅速に把握する必要がある。本ニーズでは、日常的に道路を監視すると共に、大規模地震等発生時/直後に従前との差分を解析することで道路の被害状況を把握する技術を求めるものである。加えて、把握した道路の被災状況から、概ねの復旧工法やその概算費用を算出する技術も求める ※衛星やセンサーの活用が考えられる	【変位 計測・モニタリング】 BR030046 BR030053	【応力 計測・モニタリング】		●	環境安全・防災課 道路防災対策室	・SIP第3期課題
SE1	ソフト	経済の好循環を支える基盤整備	10_道路交通マネジメント	DX	交差点の進行方向別交通量を自動で計測する技術	単路部断面交通量の計測にあたっては、自動観測技術等の活用が進んでいるが、交差点の方向別交通量については、現地での実測調査を行っている現状がある。交差点設計を実施する際には、交差点方向別交通量の把握が必要となる。本ニーズでは、交差点方向別交通量についても、AIによる画像解析等を活用して自動観測技術の開発を求めるものである。				●	企画課 道路経済調査室	
SDx1	ソフト	インフラ分野のDX	10_道路交通マネジメント	DX	ETC2.0とAIを活用した交通マネジメントサービス	現在、道路に関しては様々なビッグデータ等の情報が存在するが、それを複合的に集約して予測・提供するまでには至っていない。本ニーズでは、ETC2.0の経路情報、トラカンの交通量データ、気象データ、通行止め情報、河川の水位情報などを集約し、過去の災害教師データも含めてAI等で解析することにより、リアルタイムな道路状況予測(冠水、崩壊、凍結)、渋滞予測及び最適な迂回ルート案を提案する技術の開発を求めるものである。				●	企画課 道路経済調査室	
SDs15	ソフト	防災・減災が主流となる社会の実現	8_災害対応	DX	大規模災害時における被災状況収集・整理の自動化技術	大規模災害時に空撮(ドローンなど)により撮影した点群データや写真情報の位置情報をもとに被災箇所や被災規模を地図情報へ自動反映する技術開発により、広域的な被災状況が速やかに整理でき、その後の道路啓開や応急対策の迅速化が図られるものとする。				●	環境安全・防災課 道路防災対策室 国道・技術課 道路メンテナンス企画室 国道・技術課 技術企画G	

※(●)は、国土交通省地方整備局等の道路管理者へアンケート調査を実施し、早期開発を求めるニーズとして回答があったもの

【参考】

令和6年度 新技術導入促進計画

番号	重点分野	期間	技術名	ニーズ	対象規模 (※1)	リクワイヤメントの視点(※2)			改定・策定 予定の技術 基準等	導入促進 機関
						①	②	③		
新規 1	③	R6 R8	アスファルトの代替舗装材料技術	将来的にも安定的に供給可能な舗装材料を確保したい	全国 約122万km	アスファルト舗装と同程度以上の耐久性を有する	従来のアスファルト混合物に比べCO2排出量が同程度以下	従来と比較して再生利用の観点において同等以上	舗装設計施工指針	(一財)国土技術 研究センター
新規 2	③	R6 R8	予防保全型への転換に向けた舗装延命技術	①舗装工事のLCC抑制 ②修繕や打ち換えの各段階において、長寿命化が見込まれる技術	全国 約122万km	従来技術に比べて長寿命化(延命化)の効果が大きい	従来の修繕・打ち換えと同程度の時間で施工・交通解放が可能	従来と比較してLCCが削減	舗装設計施工指針 舗装施工便覧	(一財)国土技術 研究センター
新規 3	①	R6 R8	EV普及に向けた給電インフラに関する技術	○道路交通のカーボンニュートラルに資する技術 ○道路交通・道路管理への影響が少ない技術 ○周辺環境への影響(健康影響含む)が無い技術	全国 約122万km	舗装の維持管理に対する影響が少ない技術	設置工事、運用時における道路交通への影響が少ない技術	周辺環境に対する影響(健康影響含む)が無い技術	舗装の構造に関する技術基準等	(一財)国土技術 研究センター

重点分野

- 斬新なアイデアの取り込みや道路の周辺にある技術分野との連携による道路の多機能化・高性能化
- ICT技術を積極的に活用し業務プロセスを改善
- 性能規定化及び性能を確認する手法の明示により新材料・新工法の実証を推進

※1 参考までに提示しているものであり、必ずしも対象規模の全てに導入するものではない

※2 コストの制約の中で新たなニーズに対応するために、リクワイヤメントの視点を全て満たした上で、トレードオフとなる部分(例えば装置等の寿命や精度、外観、使用性等)についての提案も積極的に取り入れて検討を進める。

【参考】

令和6年度 新技術導入促進計画

番号	重点分野	期間	技術名	ニーズ	対象規模 (※1)	リクワイヤメントの視点(※2)			改定・策定 予定の技術 基準等	導入促進 機関
						①	②	③		
継続 1	②	R4 R6	トンネル発破作業における自動化・遠隔化技術	①切羽に近づかない爆薬装填 ②人力によらない結線作業 ③発破作業時の安全性確保と 労力の低減	約40工事/年 (直轄工事)	切羽から人が 離れた状態で の爆薬装填技 術	結線作業の遠 隔化・不要化 する技術	不発の確認・ 防止、機械化 による省人化 に資する技術	ガイドライン(案) の策定	(一社)日本建設 機械施工協会
継続 2	②	R4 R6	舗装工事の品質 管理を高度化す る技術	①砂置換・コア採取に代わる品 質管理手法 ②舗装時の温度測定をリアルタ イムで把握 ③ICT技術の導入による品質の 向上	約500工事/年 (直轄工事)	施工時の計測 データにより密 度管理を実施	舗装時の温度 が110° 以上 あることを自動 で計測	面的管理手 法による品質 の向上	土木工事共通仕 様書 等	(一社)日本建設 機械施工協会
継続 3	②	R4 R6	ICT・AIを活用し た道路巡視の効 率化・高度化技 術	①目視に代わり車載カメラやセ ンサーにより道路の変状を効率 的に把握 ②路面の劣化や道路付属物等 の変状を定期的・定量的に把握 ③一般車両から得られるデー タも活用し、効率的に維持管理に 必要な道路状況を把握	全国 約122万km	目視によらず 路面の劣化や 道路付属物等 の変状を把握	道路巡視で収 集した画像 データ等から 変状を自動で 抽出	道路パトロー ル車両に搭 載可能又は 道路パトロー ル車両以外 によりデータ 収集可能で、 低コスト	舗装点検要領 点検支援技術性 能力カタログ	(一財)国土技 術研究センター
継続 4	③	R4 R6	路面太陽光発電 技術	①2050年カーボンニュートラル に向け、再生可能エネルギー の導入促進 ②道路管理用電力への活用	全国 約122万km	交通荷重や 災害に対す る耐久性	道路施設へ の発電効率	低コストで 容易な施工 および維持 管理	舗装の構造に 関する技術基 準	(一財)国土技 術研究センター

【参考】

令和6年度 新技術導入促進計画

番号	重点分野	期間	技術名	ニーズ	対象規模 (※1)	リクワイアメントの視点(※2)			改定・策定 予定の技術 基準等	導入促進 機関
						①	②	③		
継続 5	②	R5 R7	橋梁の点検支援 技術	①点検実務の省力化 ②点検の質の確保・向上 ③点検コストの低減	約72万橋	見えない又は 見えにくい部 材等の状態を より詳しく把握 できる	構造物の残存 強度を推定し、 診断の定量化 が可能	従来の近接 目視や監視 に比べて安価	道路橋定期点検 要領 点検支援技術性 能力カタログ	(一財)橋梁調査 会
継続 6	②	R5 R7	トンネルの点検 支援技術		約1.1万箇所	健全性の診断 のための情報 を定量的に把 握できる	構造物の残存 耐力等を推定 し、診断の定 量化が可能		道路トンネル定 期点検要領 点検支援技術性 能力カタログ	(一社)日本建設 機械施工協会
継続 7	③	R5 R7	広域において安 定供給可能なア スファルト舗装 技術	①遠いプラントからもアスファルト混合物を調達して舗装できる ②従来と同等以上の耐久性の確保 ③舗装のLCC抑制、再生利用が可能	全国 約122万km	従来よりも広 域への運搬 (1.5時間以上) が可能なアス ファルト混合物	従来と同程度 以上の耐久性 を有する	従来と比較し てLCCおよび 再生利用の 観点において 同等以上	舗装の構造に関 する技術基準	(一財)国土技術 研究センター
継続 8	③	R5 R7	超重交通に対応 する長寿命舗装 技術	①国際コンテナ交通に対応した舗装技術の開発 ②補修時の通行規制時間を短くできる ③舗装のLCC抑制、再生利用が可能	約35,000km (重要物流道 路(H31.4.1指 定))	44t国際コン テナ車両連行に 対応した耐久 性を有する	従来よりも少 ない時間で施 工・交通解放 が可能	従来と比較し てLCCおよび 再生利用の 観点において 同等以上	舗装の構造に関 する技術基準	(一財)国土技術 研究センター

【参考】

令和6年度 新技術導入促進計画

番号	重点分野	期間	技術名	ニーズ	対象規模 (※1)	リクワイアメントの視点(※2)			改定・策定 予定の技術 基準等	導入促進 機関
						①	②	③		
継続 9	②	R5 R7	土工構造物点検 及び防災点検の 効率化技術	①近接目視等によらない長大法 面・斜面の点検 ②災害要因や安定度等の適切 な判読など点検の質の向上 ③点検時(現場作業や記録時) の安全性確保と労力の軽減	特定土工点検 17,000か所 (直轄管理)	近接目視によ らず土工構造 物の変状の有 無等を確認で きる 現地確認や地 形判読によら ず、点検対象 区間の選定や 安定度の確認 ができる	土工構造物の 経過観察箇所、 防災点検の要 対策箇所やカル テ箇所におい て、従来と 同程度以上の 精度で定期的 な確認ができ る	従来よりも現 場作業及び 記録管理で 省力化(低コ スト化)できる	道路土工構造物 点検要領 防災点検要領 点検支援技術性 能力カタログ	(一財)土木研究 センター
継続 10	①	R5 R7	道路構造物の計 測・モニタリング 技術	①地震発生時などに車両が通 行できるか否かなどを把握 ②構造物の耐荷力不足の兆候 や異常などを検知	全国 約122万km	低コストで、 設置・計測が 簡易	計測する機器 など自体のメ ンテナンスが 不要もしくは簡 易	交通荷重や 災害、自然環 境に対する耐 久性	ガイドライン(案) の作成	(一財)橋梁調査 会

【参考】

- 点検支援技術性能カタログは、国が定めた標準項目に対する性能値を開発者に求め、開発者から提出されたものをカタログ形式でとりまとめたもの。（2024年4月現在、321技術を掲載）
- 国及び地方公共団体の道路施設の定期点検において、積極的に活用を促進。

<主な掲載技術>

【橋梁・トンネル】（H31. 2 ～） 【土工】（R5. 11 ～）

画像計測

- ・橋梁 : 72(12)技術
- ・トンネル : 38(6)技術
- ・土工 : 8(1)技術



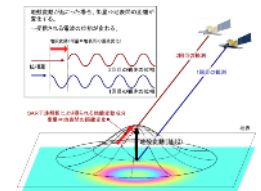
ドローンによる損傷把握



レーザースキャンによる変状把握



MMS※1を活用した
斜面・のり面点検



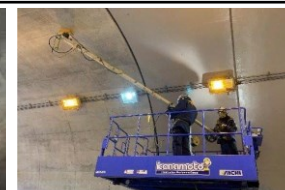
衛星SAR等を活用した
道路土工点検及び防災点検※2

非破壊検査

- ・橋梁 : 42(12)技術
- ・トンネル : 25(4)技術
- ・土工 : 3 (3)技術



AEセンサを利用した
PCグラウト充填把握



レーダーを利用した
トンネル覆工の変状把握

計測・モニタリング

- ・橋梁 : 61(9)技術
- ・トンネル : 18(4)技術



光ファイバーセンサによる
橋梁モニタリング



トンネル内附属物の
異常監視センサー

データ収集・通信〔・4(1)技術〕

【舗装】（R4. 9 ～）

ひび割れ率・わだち掘れ量・IRI

- ・30(11)技術



AIによる自動判定



スマートフォンによる路面性状測定

【道路巡視】（R5. 3 ～）

ポットホール・区画線の摩耗・建築限界の超過・標識隠し

- ・20(15)技術



スマートフォンによるポットホール検知



ドライブレコーダーによる
区画線の摩耗判定

※（）内はR6.4に新たに追加された技術数

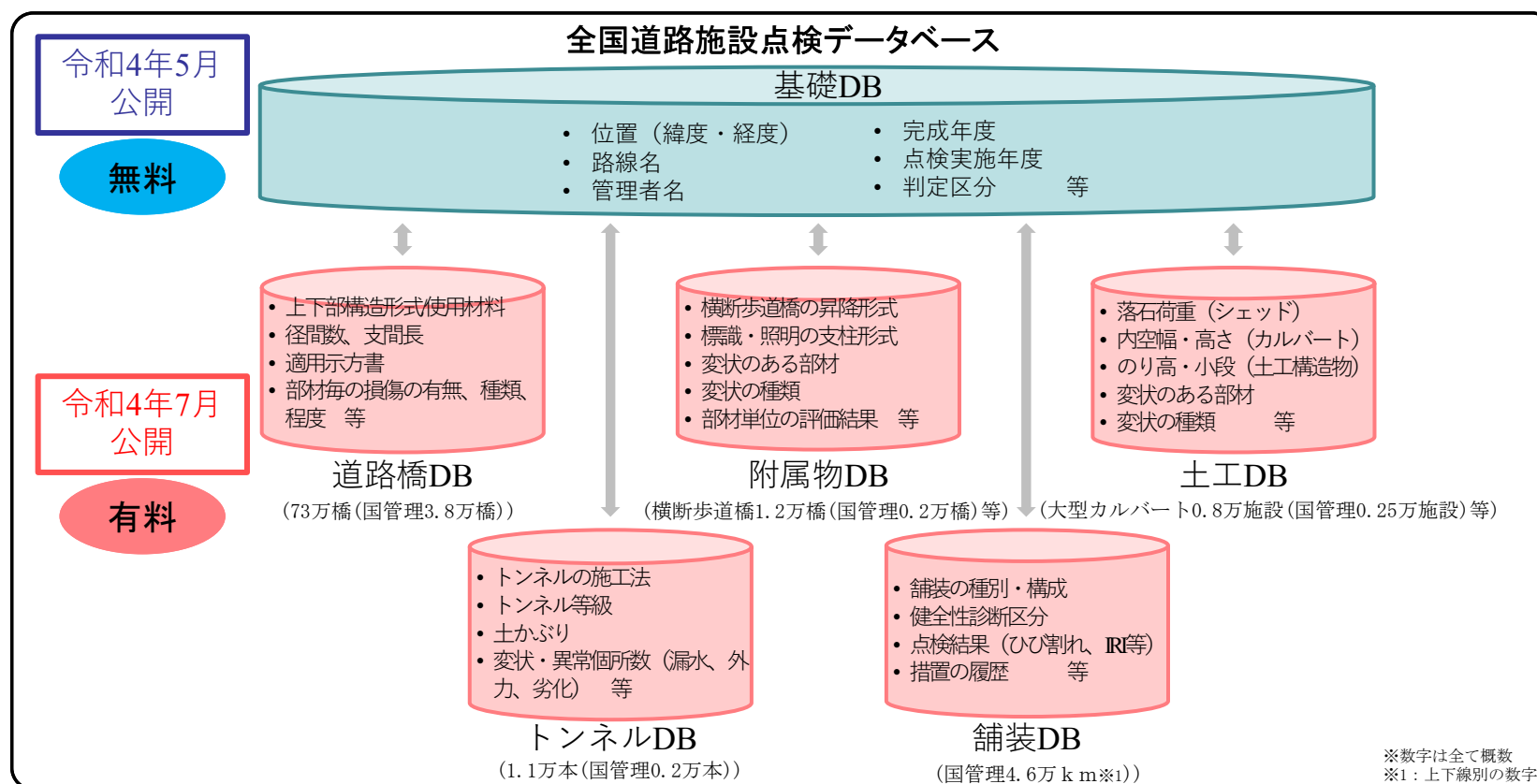
※1 MMS(モバイルマッピングシステム)

※2 国土地理院ウェブサイトより出典

全国道路施設点検データベースの概要

【参考】

- 道路施設の定期点検は3巡目に入り、道路管理者毎に様々な仕様で膨大な点検・診断のデータが蓄積
- その様なデータを一元的に活用できる環境を構築：全国道路施設点検データベース
- 全国道路施設点検データベースは、基礎的なデータを格納する基礎DB及び道路施設毎のより詳細なデータを格納するデータベース群（詳細DB）で構成
- 基礎DBはR4.5月に、詳細DBはR4.7月に公開開始：webブラウザからの閲覧等が可能。加えてAPI（Application Programming Interface）を公開



利用者登録等はこれから→<https://road-structures-db.mlit.go.jp/>

【参考】

○ 公開した全国の道路施設の諸元、点検結果等のデータは「全国道路施設点検データベース～損傷マップ～」から閲覧可能
<https://road-structures-map.mlit.go.jp/>

全国道路施設点検データベース ～損傷マップ～

下記の条件を設定して、表示ボタンを押して下さい

■施設区分

橋梁

■道路管理者区分

☒ 高速道路会社

☒ 国土交通省

☒ 都道府県、政令市、道路公社

☒ 市区町村

■その他条件

健全性

☒ IV 緊急措置

☒ III 早期措置

☒ II 予防保全

☒ I 健全

表示

概要情報

種類	道路橋
施設名称	多摩川大橋
フリガナ	(タマ川大橋)
路線名	国道1号
管理者区分	国
管理者名	関東地方整備局
管理事務所名	横浜国道事務所
都道府県	東京都
市町村	大田区
位置(緯度)	35.55729
位置(経度)	139.69654
架設年度	1949
橋長(m)	435.8
幅員(m)	25.8
点検実施年度	2019
判定区分	Ⅲ
措置状況	措置完了済み

アイコンをクリックで
諸元・点検データ等の表示が可能



施設・管理者ごとの表示や、
対策状況・判定区分で色分け表示が可能



平成27年度全国道路・街路交通情勢調査の
重ね合わせ・区間属性の表示が可能

区間属性

交通調査基本区間番号	13300010300
世代管理番号	00
道路種別	3：一般国道
路線名	一般国道1号
管理区分	1：国土交通大臣
区間延長(km)	2.9
道路状況調査単位区間番号	13100-10110
車線数	6
交通量調査単位区間番号	13100-10080
平成27年度調査交通量観測・非観測の別	1：観測
個別調査観測使用の別	0：活用なし
12・24時間観測の別	2：24時間観測地点
昼間12時間交通量(全車上下計)(台)	30,981
24時間交通量(全車上下計)(台)	43,201
昼間12時間大型車混入率(%)	12.3
混雑度	1.05
旅行速度調査単位区間番号	13100-10260
混雑時旅行速度(上り)(km/h)	24.1
混雑時旅行速度(下り)(km/h)	20.4
昼間非混雑時旅行速度(上り)(km/h)	32.9
昼間非混雑時旅行速度(下り)(km/h)	22.5

背景地図(地理院タイル)

☐ 彩色地図

☐ 標準地図

☐ 白地図

☐ 写真

◆平成27年度全国道路・街路交通情勢調査
ズームレベル12以降で表示可能

☐ 高速自動車国道

☐ 都市高速道路

☒ 一般国道 直轄

☐ 一般国道 補助国

☐ 主要地方道(都道府県道・指定市道)

☐ 一般都道府県道・指定市の一般市道

☐ 重要物流道路(R2.4時点)

☐ うち、直轄国道(太線表示)(R2.4時点)

☐ 代替・補完路(R2.4時点)

☐ 主要渋滞箇所(R1.12時点)

表示設定

表示位置

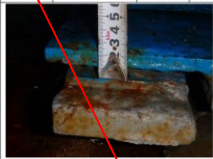
※表示されている対策状況は、あくまでもイメージであり実際のデータとは異なります。

【参考】

健全度判定

損傷写真	写真番号(左)	2	写真番号(右)	5	部材名	主桁	部材番号	01
	損傷の種類		腐食、変形・欠損					
								
所見	A1支点部の主桁垂直補剛材下端に腐食による欠損が生じている。 P1支点部の主桁垂直補剛材下端に腐食による欠損が生じている。 ・ A1、P1支点部の主桁垂直補剛材下端に著しい腐食が生じており、欠損に至っている。原因は雨水の吹込み等による可能性が高い。 ・ 欠損により支点部の鉛直反力に対する有効断面積が減少しているため、支点部の耐荷力が低下していると判断される。 ・ 損傷位置は雨水の影響を受ける外桁であり、今後も腐食進行の可能性は高い。 ・ 以上より、橋梁構造の安全性の観点より、速やかに補修（当て板補強、部分再塗装等）を行う必要がある。							
	今期判定	部材毎の対策区分判定		C2		部材毎の健全性の診断		III
前期判定	部材毎の対策区分判定		B		部材毎の健全性の診断		I	

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。 ○損傷写真は2枚までとし、左右に配置すること。

写真番号	36	撮影年月日	2019.10.02	写真番号	37	撮影年月日	2019.10.02
部材名	支承本体	要素番号	0201	部材名	支承本体	要素番号	0201
損傷の種類	その他	損傷程度	e	損傷の種類	その他	損傷程度	e
							
メモ 【損傷規模】 H=10mm 【他損傷】 ①腐食-小(小・小) ②防食機能の劣化- e(分類-2) 【比較】 進行なし				メモ 【損傷規模】 H=10mm 【他損傷】 ①腐食-小(小・小) ②防食機能の劣化- e(分類-2) 【比較】 進行なし			
写真番号	38	撮影年月日	2019.10.02	写真番号	39	撮影年月日	2019.10.02
部材名	支承本体	要素番号	0201	部材名	支承本体	要素番号	0202
損傷の種類	その他	損傷程度	e	損傷の種類	腐食	損傷程度	b
							
メモ 【損傷規模】 H=10mm 【他損傷】 ①腐食-小(小・小) ②防食機能の劣化- e(分類-2) 【比較】 進行なし				メモ 【損傷規模】 H=10mm 【他損傷】 ①腐食-小(小・小) ②防食機能の劣化- e(分類-2) 【比較】 進行なし			
写真番号	40	撮影年月日	2019.10.02	写真番号	41	撮影年月日	2019.10.02
部材名	支承本体	要素番号	0301	部材名	支承本体	要素番号	0301
損傷の種類	腐食	損傷程度	b	損傷の種類	腐食	損傷程度	b
							
メモ 【損傷規模】 H=10mm 【他損傷】 ①腐食-小(小・小) ②防食機能の劣化- e(分類-2) 【比較】 進行なし				メモ 【損傷規模】 H=10mm 【他損傷】 ①腐食-小(小・小) ②防食機能の劣化- e(分類-2) 【比較】 進行なし			

様式(その10) 損傷写真とコメント例

様式(その6) 健全性の診断に関する所見の例

【参考】

- 関東地方整備局では、点検DBの公開用APIを活用し、地図画面上で道路構造物の情報を閲覧するアプリを開発中。各道路構造物の位置・諸元（台帳・カルテ）・点検データの参照・検索や、集計・グラフ化、損傷写真の検索、DRMとの連携等が可能。
- これまでに、基礎情報は道路橋・トンネル等の全ての基礎データベース、詳細情報は道路橋データベースとのデータ連携を実現し、試行環境で稼働中。今後、関係する全ての職員が利用できる方法を検討。

全国道路施設点検データベース

基礎情報DB

公開用API

道路橋DB

公開用API

関東地整の開発アプリのイメージ

道路構造物DB
Road Structure DataBase

テキストから施設検索

集計・グラフ化

写真検索

任意データ一時表示

DRM表示

お問い合わせ

ヘルプ

共有

表示エリア

路線および距離標

移動

国道

号

上下線

未指定

現旧

未指定

距離標

kp

データ種別

道路構造物

☒ 道路橋

☐ トンネル

☐ シェッド

☐ 大型カルバート

☐ 橋脚歩道橋

☐ 門型橋脚等

健全度

措置状況

点検年度

施設概要
クイックカード

施設ID

2022-10-24T12:00:00+09:00

施設ID

35.65932,139.91452

施設名称

東海大橋（新橋）

フリガナ

(Shimada Bridge)

施設区分

橋

管理区分

関東地方整備局

管理事務所

千葉県調布市

市町村

市川市

位置(位置)

35.659320

緯度

139.91452

経度

202.9

橋長(m)

2019

外観写真

写真

橋梁台帳

橋梁台帳

カルテ

77条調査

健全度

措置状況

点検年度

各種調査

橋梁台帳

点検調査

カルテ台帳

77条調査

道路ネットワーク表示
(DRM連携)

施設の位置情報

各種自動集計

損傷写真検索

点検調書のその3・6・10の
損傷写真等を検索。
例えば、「所見欄」に「鉄筋露出」という文字列の記録を含む全ての施設の損傷写真を検索が可能